

研究課題：日体大モデルのコーチ実践指導力向上に関する研究

研究代表者：伊藤雅充

最近、学校部活動からハイパフォーマンススポーツの広い範囲で、スポーツ指導におけるコーチのあり方が社会的問題として取り上げられてきている。我々コーチング研究者・コーチディベロッパーは、コーチングとはどうあるべきか、効果的なコーチング、より良いコーチングとはどういうものかという問いに答えていく必要がある。そこで本研究では、効果的なコーチングのあり方について検討し、コーチ実践指導力向上に関するモデルを構築・展開していくことを目的として、次の8項目について研究を実施した。1) 国際コーチングエクセレンス協議会(旧国際コーチ教育協議会)会議にて国際的なコーチ教育の動向調査を実施した。2) Global Coaches Houseにて諸外国におけるコーチングに関する取り組みの情報収集とディスカッションを行った。3) 3名の外国人研究者を招聘し、国際コーチングカンファレンスおよびインハウスセミナーを開催し、最先端のコーチング学の情報を得た。4) FCバルセロナ等を訪問し、エリートアスリート育成に関する情報の収集を行った。5) 国内コーチのコーチング調査として、柔道の学生アスリートに対するコーチング評価インタビューを行った。7) ゲームアプローチのひとつである Play Practice および Game Sense を実践している研究者を訪問し、実際のセッション観察を含む情報収集を行った。8) 大学バレーボールチームへの Game Sense 導入するとともに、Game Sense アプローチによる小学生対象マルチスポーツキャンプを実施した。これまで日本のハイパフォーマンススポーツや参加型スポーツを支えてきたコーチング学は、実際には「学」と呼ぶにはあまりにも未成熟であり、海外(特に英語圏)のそれから比べると、後塵を拝している状況であることが海外の調査を通して浮かび上がってきた。効果的なコーチングとは何か、効果的なコーチングを行う能力をいかにして獲得するのかという観点から、コーチ教育プログラム構築を考える必要がある。これらの調査研究の成果を活かし、本学大学院コーチ教育プログラムを充実させていく。また、将来のエリートアスリート育成システムの再構築に向けて、大学院レベルの高度な専門能力を身につけたコーチや大学院での研究・教育機能を活用していくことが可能だろう。